

FY25モバイルスタックテスト ご説明資料

2025/12/19

ソフトバンク株式会社

1. 接続料等と利用者料金の関係の検証対象に関する要件

指針、接続料算定研究会報告書（第7次～第9次）より、
検証対象の選定要件は次のとおりと理解

- ① 指定事業者が現に提供しているサービス・料金プランのうち、その料金の月額相当額が、競争事業者が現に提供する**同等のサービス等の料金の月額相当額と近接**
- ② 「競争事業者から指定事業者へ**継続的に利用者が移行していることが定量的に明らか**である場合」や、「競争事業者が①に示すサービス等と**同等の価格で競合サービス等を提供することが困難**であることが立証出来る場合」など、具体的課題に基づくMVNOからの申告
- ③ 接続料算定研究会で検証を行う合理性が認められたもの
- ④ 前回までに検証対象となったサービス等については、利用者料金の低廉化や接続料等の上昇等、**前回の検証からの状況変化がみられない限りにおいては、再度の検証を行わない**

MVNOから検証要望を受けた当社サービスは以下と認識

	MVNO委員会様	IIJ様	オプテージ様
要望のあった 当社プラン	Y!mobile 5GBプラン 30GBプラン LINEMO 3GBプラン* 30GBプラン	Y!mobile 30GBプラン (5GB増量プラン) LINEMO 30GBプラン	Y!mobile 30GBプラン

*一昨年度検証済みのプラン

3. 低容量帯

過去に検証済であり、特筆すべき状況変化はないため検証は不要と考える

Y!mobile シンプル 3Sプラン

- FY23検証において価格圧搾による不当な競争を引き起こすものではない旨、公表済
- FY23検証時と比して、①利用者料金は**減少** (▲5.9%) だが、それ以上に②データ接続料は**大幅低下** (▲29.3%)

LINEMO ベストプラン

- FY22検証において価格圧搾による不当な競争を引き起こすものではない旨、公表済
- FY22検証時と比して、①利用者料金（3GB）に変更なし、②データ接続料は大幅に低下
- 指針改正に伴い考慮すべき割引（セット割引・特定決済方法割引）も存在せず

※価格は税抜

	Y!mobile		LINEMO ベストプラン	
	前回 (FY23)	今回 (FY25)	前回 (FY22)	今回 (FY25)
容量	4GB	5GB	3GB	~3GB (変更なし)
利用者料金 (/月)	2,365円 (591円/GB)	2,780円 (556円/GB) ▲5.9%	990円	990円 (変更なし)
データ接続料 (/10Mbps・月)	12.6万円	8.9万円 ▲29.3%	18.8万円	8.9万円 ▲52.6%

赤枠内構成員限り

Y!mobileシンプル3Mプランを検証すれば LINEMOベストプランVの検証は不要と考える

※MVNO委員会様のアンケート結果より、競合するMNOのサービス・ブランドの割合としてY!mobileの方が高い(30%に対し35%)点も考慮

- ① 割引適用後のY!mobileシンプル3Mプランの方がLINEMOベストプランVよりも安価
- ② Y!mobileシンプル3Mプランの方がLINEMOベストプランVよりも営業費相当額が高い

※価格は税抜

		Y!mobile シンプル3Mプラン		LINEMO ベストプランV	
プラン	容量	30GB	30GB+5GB (データ増量オプション)	30GB	
	利用者料金	3,780円	3,780円+500円	2,700円	
	プランに紐づく割引	<ul style="list-style-type: none"> ・ 光セット割 (▲1,500円) or 家族割 (▲1,000円) ・ 親子割 (▲1,000円) ※12ヶ月 ・ カード割 (▲500円) 		考慮すべき割引なし	
	割引後利用者料金*	①低 780円	①低 1,280円	①高 2,700円	
営業費相当額		②高	 店頭販売及びオンライン販売	②低	 オンライン販売のみ

*光セット割と家族割の併用は不可につき、より割引額が高いおうち割光を採用

カテゴリ	MVNO殿ご意見	当社意見
セット割	<p>セット割適用サービスについて、NTNサービスとのセット割引も開始されていることから、同様にセット割引適用対象として検証いただきたい。 (MVNO委員会)</p>	<p>NTNサービスとのセット割引がモバイル市場に与える影響等について、必要に応じて確認していくことから始めていくべきと考えます。</p>
ブランド間の関係性	<p>MNOに対し、廉価プラン等が内部補助によって不当に維持されていないことの会計的な説明を求めたい (MVNO委員会)</p>	<p>そもそも、スタックテスト検証で価格圧搾による不当な競争を引き起こすものではない旨確認を行うことで十分と考えます。なお、当社はソフトバンク・ワイモバイル・LINEMOといったプランごとの区分けでの会計は作成しておらず、ご要望されたような説明は不可能です。</p>
5GSA	<p>5GSAの機能開放においてはMVNOでも通信品質を確保することが重要であり、従来のピーク時基準の帯域課金では、ピークと非ピークの差拡大による費用対効果の低下が懸念される。帯域設定の柔軟化を事業者協議で進めるべきだと整理されているが、MNOが従量課金の選択肢を用意するなど議論を深める必要がある。(MVNO委員会)</p>	<p>MNOはピークと非ピークの差による費用対効果も踏まえ、設備投資を行い、必要な帯域を確保しています。現行の帯域課金は、MVNOも同様の検討を行って必要な帯域を確保する必要がある点で、イコールフットディングは確保されています。 また、従量課金化に関しては、「接続料に関しては、従量課金という考え方もあり得る中で、帯域課金の方がMVNOの予見性が高いということで帯域課金が選択されてきた」という経緯があります。</p>
営業費	<p>営業費相当額（第二種指定電気通信設備接続会計規則に基づく移動電気通信役務収支表の営業収益に対する営業費）では、人件費や広告宣伝費等の費用計上の按分や割合が非開示であるため、検証時には営業費相当額が直近1年間で大きな変化がなかったか等を注視いただき、大きな変化が認められる場合は、直近の営業費相当額での検証の必要性についてご議論いただければと思います。 (IIJ)</p>	<p>直近1年間の営業費相当額では、その年のみ生ずる特有の要素を排除できず、一断面での検証となる可能性があることから、モバイルスタックテスト指針のとおり5年平均とすべきと考えますが、まずは、接続料算定研究会第9次報告書のとおり、「接続会計を基に営業収益の割合の直近5年間の平均値により営業費相当額を算出する現在の方法は、一定の合理性があると考えられることから、引き続き現在の方法を維持することとし、今後、MNO各社の営業費比率が前年度と比べて著しく上昇しているような場合には、必要に応じて改めて検討することが適当」と考えます。</p>